



モツゴ〈コイ科〉

クチボソとも呼ばれるコイ科の魚です。大きな川などの水底近くに群れます。オスが卵を守ります。

おおよそ 約 6 cm

生息地 池・沼・湖・水路・川の中流～下流

分布 本州（関東地方以西）～九州など



タモロコ〈コイ科〉

体の横に黒く太いしま模様が1本あります。水生昆虫などを食べます。

おおよそ 約 7 cm

生息地 池・沼・湖・水路・川の中流～下流

分布 本州、四国など

オオクチバス〈サンフィッシュ科〉



（※「特定外来生物」は、外来生物の中で、特に生態系に害を及ぼす可能性のある生物。法律で指定している）

コクチバス（3巻を見てね）、フロリダバスなどのバスの仲間と合わせてブラックバスとも呼ばれます。上あごの骨が目の後ろまできていて口が大きく、肉食性です。生きたままでの持ち出しが禁止されている特定外来生物です。

おおよそ 約 50 cm

生息地 池・沼・湖・水路・川の中流～下流

分布 原産は北アメリカ。日本では北海道を除く全国各地に定着



カムルチー〈タイワンドジョウ科〉

別種のタイワンドジョウ（1巻を見てね）とともに雷魚と呼ばれる国外外来種です。空気をすいこんで呼吸できるので、酸素の少ないところでもはんしょくできます。水面に水草を集めて産卵します。

おおよそ 約 80 cm

生息地 池・沼・湖・川の中流～下流

分布 原産は中国。日本では北海道～九州に定着

まへ前から見るとこんな顔だよ。



ブルーギル〈サンフィッシュ科〉

えらぶたの後ろに青い模様がある、オオクチバスの仲間です。生きた状態での持ち出しが禁止されている特定外来生物です。エビや小魚を食べます。

おおよそ 約 25 cm

生息地 池・沼・湖・水路・川の中流～下流

分布 原産は北アメリカ。日本では全国各地に定着



田んぼ・水路・池・沼の生き物

かい貝

田んぼや水路、池・沼には、タニシなどの小さな貝がすんでいます。多くは水の流力が弱い水底にいます。

タニシは1巻でも紹介しているよ



オオタニシ〈タニシ科〉

田んぼなどで見られる大型のタニシです。子どものころは貝がらが角ばっています。マルタニシより大きく、メスは親と同じ形をした子どもの貝を30〜40個産みます。

大きさ (殻高) 約6cm
生息地 池・沼・湖・田んぼ・水路
分布 北海道〜九州

カラスガイ〈イシガイ科〉

大型の二枚貝で、深い水の底にすんでいます。成長するにしたがって、からの外側の色が緑から黒に変化します。



大きさ (殻長) 約25cm
生息地 池・沼・湖・水路・川の中流〜下流
分布 北海道〜九州



マルタニシ〈タニシ科〉

全国でよく見られるタニシで、卵は親のからの中で育ち、貝の形で出てきます。オオタニシより丸みがあります。

大きさ (殻高) 約4cm
生息地 池・沼・湖・田んぼ・水路
分布 全国各地

サカマキガイ〈サカマキガイ科〉

あめ色のからを持つ左巻きの貝です。体は黒色で、細い糸状のしゅっ角を持っています。空気を取り入れ、水面の下にういていることができます。水質の悪い場所でも比較的よく育ちます。

大きさ (殻高) 約1cm
生息地 池・沼・湖・田んぼ・水路
分布 原産はヨーロッパ。日本では全国各地に定着



ドブガイ〈イシガイ科〉

ヌマガイとも呼ばれる二枚貝で、幼生(子ども)はタナゴやヨシノボリに寄生して育ちます。タナゴ類はドブガイのえらの間に卵を産みつけ、ふ化した稚魚はしばらく貝の中で育ちます。

大きさ (殻長) 約20cm
生息地 池・沼・湖・水路・川の中流〜下流
分布 全国各地



幼生だよ。

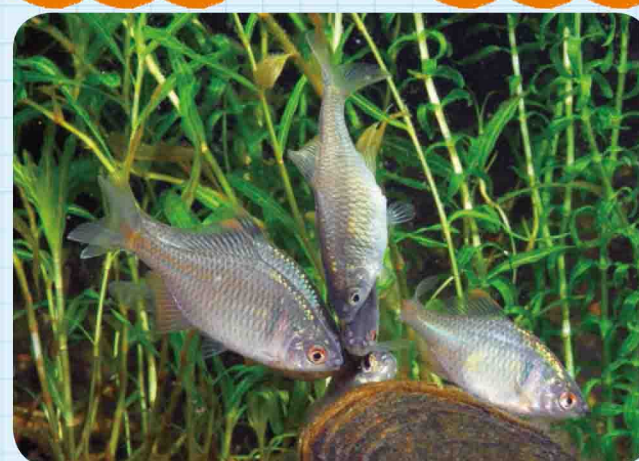
モノアラガイ〈モノアラガイ科〉

水のきれいな場所で育つ巻貝で、からは口が広くてうすいので割れやすいです。寒天質に包まれた卵を産みます。

大きさ (殻高) 約2cm
生息地 池・沼・湖・田んぼ・水路
分布 北海道〜九州



二枚貝に守られるタナゴの卵



タナゴの仲間は、メスの産卵管を二枚貝の出水管に入れて、貝のえらに卵を産みつけます。卵は貝の中で外敵から守られながらふ化し、稚魚に成長してから貝の外に出てきます。



卵は貝のえらに沿って並び、貝の中でふ化して育っていくよ。

稚魚はふ化して1か月くらいしたら、出水管を通じて外へ出ていくよ。卵を産みつけられた貝は弱るよ。



長い産卵管を使って二枚貝に産みつけているね。

ニッポンバラタナゴ(上下の写真)



産卵管

川と海を 行き来する魚たち

魚の中には、海水と淡水を行き来するものがあります。また、行き来をやめ、淡水で一生を過ごすようになったものもあります。

降海型の魚

川で生まれますが、川に残らず、成長のため海に降りて大きくなり、産卵のために川に戻ってきます。川に残った仲間よりも大きく育ち、卵の数が増える特ちょうがあります。

例：サクラマス、サツキマス、ベニザケ

サクラマス〈サケ科〉

川で生まれ、成長すると海に向かいます。はんしよく期に婚姻色になります。

おおよそ 大きさ 約 40cm

生息地 湖・川の中流～下流

分布 北海道、本州（青森県～千葉県・山口県）

陸封型の魚

川で生まれ、一生を川で過ごし、川で産卵します。海に降りた仲間より体が小さく、卵の数が増えない特ちょうがあります。

例：ヤマメ、アマゴ、ヒメマス

ヤマメ〈サケ科〉

サクラマスの陸封型。水が冷たくきれいな川の上流で一生を過ごします。体に小判状の模様があります。

おおよそ 大きさ 約 20cm

生息地 湖・川の上流

分布 北海道、本州（青森県～神奈川県・山口県）、九州の一部

もともとは
おなじ魚！

降海型
ベニザケ

陸封型
ヒメマス

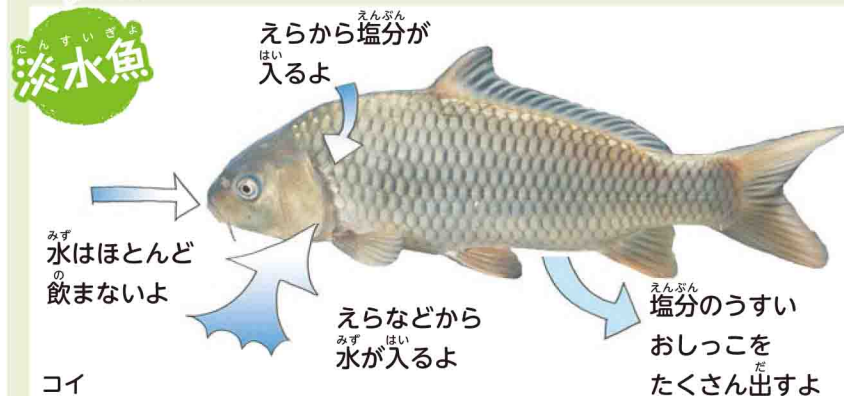
降海型
サツキマス

陸封型
アマゴ

降海型の
ほうが
大きくなるよ！

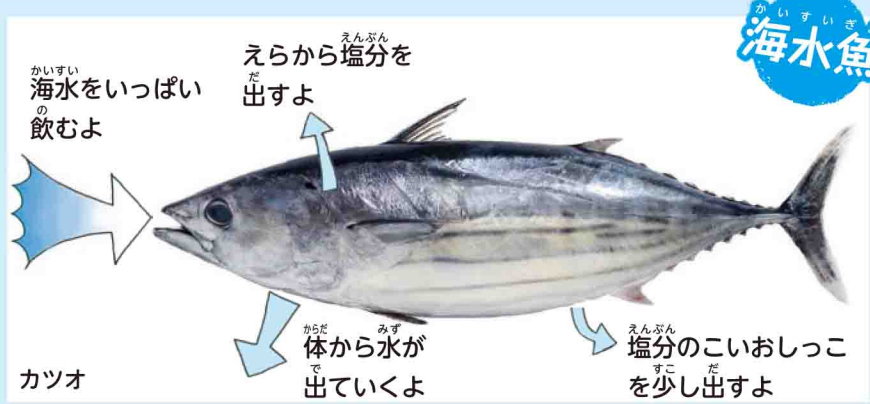
淡水にすめる魚と
海水にすめる魚が
いるのはなぜ？

魚は体の中の塩分濃度を一定に保つしくみを持っているからだよ。
魚の体の塩分濃度は淡水と海水の中間だよ。



淡水で生きる魚は、淡水の塩分濃度が低いので、体の中に水が入ってくると体液がうすくなってしまいます。これを防ぐため、水をほとんど飲まず、塩分が少ないおしっこをたくさん出して、体の中の塩分のこさを一定にします。

海水で生きる魚は、海水の塩分濃度が高いので、体の水分が外に出てしまいます。これを防ぐために海水をたくさん飲みます。塩分の多いおしっこは少し出して、えらから大部分の塩分を捨てます。このようにして、体の中の塩分のこさを一定にしています。



左で紹介した魚以外にも、川と海を行き来するものが出て、「回遊魚」と呼ばれます。回遊魚は、淡水と海水とで体のしくみを切り替えて、塩分やおしっこの排出量を調整しています。

サケ〈サケ科〉

アユ〈アユ科〉

ニホンウナギ〈ウナギ科〉

22 ページを見てね。

27 ページを見てね。